

平成 2 5 年千葉市教育委員会会議
第 4 回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成25年千葉市教育委員会会議第4回定例会会議録

日時 平成25年4月17日(水)

午後2時00分開会

午後3時25分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員	委	員	長	内山 英夫
	委		員	和田 麻理
	委		員	篠原ともえ
	委		員	中野 義澄
	委		員	明石 要一
	教	育	長	志村 修

出席職員	教 育 次 長	小池よね子	指 導 課 長	山本 幸人
	教 育 総 務 部 長	竹川 幸夫	保 健 体 育 課 長	津野 政彦
	学 校 教 育 部 長	磯野 和美	教育センター所長	真田 清貴
	生 涯 学 習 部 長	原 誠司	養護教育センター所長	山本 雅司
	千 葉 高 等 学 校 長	三木千恵子	生涯学習振興課長	松戸 利一
	稲 毛 高 等 学 校 長	山本 昭裕	中 央 図 書 館 長	橘 高俊
	総 務 課 長	石野 隆史	生涯学習振興課科学教育推進担当課長	遠藤 悟
	企 画 課 長	大崎 賢一	総 務 課 総 括 主 幹	南 久志
	学 校 財 務 課 長	山田 輝夫	生涯学習振興課主幹	塚越 達雄
	学 校 施 設 課 長	小野 正嗣	学 事 課 長 補 佐	半澤 仁司
	学 事 課 長	小川 彰	生涯学習振興課主査	湖口 淳一
	教 職 員 課 長	伊藤 剛		

書 記	総 務 課 長 補 佐	山本 春樹	総 務 課 主 任 主 事	佐久間 暁子
	総 務 課 総 務 係 長	渡邊 実	総 務 課 主 事	荒井 博行
	総 務 課 主 任 主 事	藤井 拓也		

(開会に先立ち、出席職員の紹介を行った。)

- 1 開会
内山委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
内山委員長より中野委員を指名
- 4 会期の決定
平成25年4月17日(1日間)ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 会議録の承認
平成24年第11回定例会及び第12回定例会会議録を全委員異議なく承認
- 7 議事の概要
 - (1) 報告事項
報告事項(1) 平成25年度新設校の開校について
企画課長より報告があった。
報告事項(2) 平成25年4月1日付県費負担教職員の人事の概要について
教職員課長より報告があった。
報告事項(3) 千葉県未来の科学者育成プログラムについて
生涯学習振興課科学教育推進担当課長より報告があった。
報告事項(4) 市立高等学校の進学状況について
千葉高等学校長及び稲毛高等学校長より報告があった。
 - (2) 議決事項
議案第12号 千葉県指定文化財の指定について
生涯学習振興課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
 - (3) 発言の要旨
報告事項(1) 平成25年度新設校の開校について
内山委員長 企画課長、報告をお願いします。
企画課長 報告事項(1)「平成25年度新設校の開校について」、報告します。
本市では、学校の小規模校化や大規模校化によって生じる教育上・学校運営上の諸問題を解消するとともに、公平な教育環境を

整え、教育の質の向上を図るため、学校適正配置事業を推進しています。

このたび、小規模校化していた美浜区の磯辺第一小学校と第二小学校、第四小学校を統合し、新設校として磯辺小学校が本年4月1日に開校しました。本市の統合新設校としては7番目、小学校としては6番目の開校となります。

通学区域については、磯辺3丁目から8丁目までの全域となっており、学校規模は21学級、児童数628人で、特別支援学級設置校でもあります。

また、小規模校化していた美浜区の磯辺第一中学校と磯辺第二中学校を統合し、新設校として磯辺中学校も4月1日に開校しました。本市の統合新設校としては8番目、中学校としては2番目の開校となります。

通学区域は磯辺1丁目から8丁目、高洲4丁目の一部、そして、高浜5丁目から6丁目で、学校規模は15学級、生徒数は555人です。

なお、学校の位置についてですが、統合校については、旧磯辺第一中学校の校舎を改修し、設置することとしていますが、改修工事が終了するまでの当分の間については、旧磯辺第二中学校を使用することとしています。

次に、市立養護学校高等部の過密化を解消し、良好な教育環境を維持向上させるとともに、軽度の知的障害のある生徒が社会自立や職業自立に向け必要な力を身につけ、卒業後、職業について社会人として自立していけるようにするため、旧真砂第二小学校跡施設へ市立養護学校真砂分校及び市立高等特別支援学校を設置することとして4月1日に開校しました。

市立養護学校真砂分校の通学区域については、中央区、若葉区、緑区の全域と稲毛区の一部で、学校規模は2年生3人の1学級です。また、市立高等特別支援学校の通学区域については、市内全域として、学校規模は1、2年生32人の4学級です。

なお、開校式については、高等特別支援学校を除く磯辺小学校、磯辺中学校及び養護学校真砂分校が始業式を兼ねまして4月5日に、高等特別支援学校については、入学式を兼ねて4月12日に行われました。

今回の統合により、平成25年度の本市学校数については、小学校が113校、中学校が、稲毛高等学校附属中学校を含めまし

て56校、特別支援学校が3校、高等学校2校の計174校となります。

和田委員 高等特別支援学校の開校式に出席しました。小学校跡施設の校舎を使っており、新しい校舎ではないですが、教室などを拝見すると、パーテーションの作り方などで、新しく建設されたような雰囲気が出ていて、子どもたちもとても喜んでいるように思いました。

それから、1期生ということで、子どもたちも自覚や誇りを持ってこれから過ごしてくれるのではないかと思います。

また、小学校の設備をそのまま高校生が使うということで、想定内であるとは思いますが、扉やお手洗いなどで頭がぶつかるのではないかなと思います。そのような所が、実際に使うと出てくるかと思いますので、直せる所は、けがのないようにということを最優先で対処していただければと思います。

もちろん、不自由な点については、生徒たちが注意することで乗り切っていけると思いますので、ただ一点は、本当にけがのないように子どもたちが過ごしていけたらと願っておりますのでよろしくお願いいたします。

明石委員 私も高等特別支援学校の開校式に参りました。4階の教育相談などを含め、教育的支援が必要な方を支援する複合施設にするという発想は非常に良いと思います。今の既存の施設をうまく利用して新たに飛躍させるというものとしては、良い施設を作っていただいたと思います。

もう一点ですが、ある小学校の1年生で、男子児童が少なくて女子児童が多いというところがあると聞きました。どこの小学校かわかりますか。

篠原委員 今、小学校2年生だと思うのですが、大分女子児童が多い学校があると聞きました。ですから、その学年がそうだということでもないと思うのですが、いかがでしょう。市全体としてはいかがでしょう。

志村教育長 5月1日付で学校基本調査の結果が出ますから、そのときに男女別、その他も含めて資料を出して、また、傾向がわかればと思います。並んで手をつないでいると、最後の列で男子同士並ぶのが3組、4組あるという学年もあります。ただ、その理由はわかりません。調べてみます。

篠原委員 疑問なのですが、新設校になったときには、校章や校歌はど

のような形になるのでしょうか。

学校財務課長 校章も校歌も新たな学校で決めることになっています。

明石委員 打瀬小では、校歌を子どもたちから募集しています。プロに曲をつけてもらうというようなことを打瀬小学校がやってくれたので、全国発信することで皆さん見に来ました。校章や校歌を決めることを学校にお任せはするのですが、地域の方々や児童生徒が下から運動を作ってくれたことで、自分たちが作った校歌や校章というと親しみがわくと思います。

志村教育長 これまでの新設校でそのような手法でやった学校もありますし、校章のデザインなども参考の部分は子どもに作らせて、それをプロがアレンジするという所もありますので、今のお話は良いと思います。特に磯辺中は、中学生なので、それなりに少し考えてくれるといいかなと思います。

報告事項(2) 平成25年4月1日付県費負担教職員の人事の概要について

内山委員長 教職員課長、説明をお願いします。

教職員課長 報告事項(2)「平成25年4月1日付県費負担教職員の人事の概要について」、報告します。

管理職人事については、3月11日の教育委員会会議第1回臨時会で議決いただきました。3月13日に各学校に内示を行い、28日に辞令交付式を実施、4月1日には異動者が異動先に着任しました。各学校においては、新年度の体制が整ったところですが、改めて人事異動の概要について報告します。

まず、今年度の異動総数ですが、小・中・特別支援学校合わせて1,250人で、昨年度末より105人の減となっています。また、新規採用教職員数ですが、小学校121人、中学校68人、特別支援学校8人、合計197人で、昨年度より25人の増となっています。その他、養護教諭5人、事務職員2人、栄養職員1人、合わせて8人を新たに採用しました。

これにより、平成16年度以降、今年度までの10年間ににおいて、合計で約1,700人近くの新規採用教職員を採用したことになります。

次に、管理職の登用についてですが、校長の新規登用数は52人、教頭の新規登用数が39人で、昨年度より校長が17人、教頭が7人増加し、多くの管理職が誕生しています。

また、管理職のうち、女性管理職の数は、校長27人、副校長1人、教頭20人、合計48人となっており、昨年度と同数とな

っています。

最後に、同一校7年以上の勤務者の解消率ですが、小・中学校とも昨年並みに解消することができ、学校の活性化につながっているものと考えます。なお、産休、育休、休職、療養休暇中等について、異動が困難と見込まれる者、あるいは、校長の裁量権の拡大によって残留をさせる者については含まれておりません。

明 石 委 員 まず1点目は、女性管理職の人数が昨年と比較して増えていません。10月の教育委員会会議定例会の中で、事務局から管理職登用の人事異動方針が出ましたよね。女性教員の管理職への登用を積極的に推進するということでしたが、私は数値を出してくださいということを申し上げました。数値目標を出さないと、判断が難しいので、数値目標を出してほしいのですが、今回、女性管理職を多くするといって、一人も去年と変わっていません。なぜこうなったのか説明をしていただきたいと思います。

2点目は、管理職の登用が非常に増えてきています。新卒の教員が増えると同時に、新しい管理職の方が増えてきました。そうすると、新たに昇格した教務主任レベルや教頭を含めて、将来の校長を育成するプログラムというのがどのような形で行われているのでしょうか。

若い層が変わってきていますので、そのような職場における人事掌握が難しくなってくると思います。そうすると、配置は難しくても、管理職候補者として登載された方にどのような研修プログラムをしているのでしょうか。準備段階でトップマネジメントの訓練を1年か2年かけてされると良いかなということでお聞きしようと思います。

教職員課長 女性管理職についてですが、統合等によって学校数が3校ほど減少しているため、全体の割合としては、平成24年度が12.9%、25年度が13.5%ということで、上がっています。

なお、管外交流という形で、女性管理職1人を南房総教育事務所のほうへ新任校長として充てていますので、そのような面ではさらに1人配置となっています。

また、管理職の育成プログラムについてですが、昨年度までは管理職研修ということで、校長、教頭、2年目、3年目を迎える管理職を対象とする研修プログラムを教職員課で実施していましたが、今年度から、登用されており準備段階にある登載者を対象として、特に教頭の登載者を対象とした研修という形で切り

かえることとして7月に予定しています。

教育センター所長 管理職の研修についてですが、大幅な見直しを行いまして、できるだけ実務的な、現実的な内容になるように変更しました。特に、今まで課長講話のような形式をとっていましたが、そのような講話を一切やめて、実務的な内容、例えば、学校経営における人、物、金というような命題的な内容のものや、先輩校長、教頭、教師に学ぶというような、先輩に現実的な悩みなどを聞いてもらい、それに対してアドバイスをするというような内容を盛り込むようにしていきました。

明 石 委 員 そのように教育センターが実施していただいてうれしいです。それでできればお願いしたいのは、宿泊を伴う研修を実施していただければと思います。初任者研修は宿泊で行ったと思いますが、日帰りで行う研修と宿泊を伴う研修では、全然変わります。特に、「先輩校長に聞く」の場合、宿泊を伴う研修のほうが良いアドバイスができるような感じがしますから、そのようなことも含めて、急には難しいと思いますが、検討していただければと思います。

教育センター所長 新任校長研修は1泊2日で、長柄のほうで実施しました。また、先日、初任者研修を実施し、約200人が参加しまして、大変充実した研修ができました。

志村教育長 管理職については、すぐに教頭にできないという部分で、教務主任やその他の学校の中での重要な職を経験しなければならない準備の段階があります。そのような面で、女性管理職を育てるのに時間がかかるので、今、チャンスだと思っていますが、校長にぎりぎりまで登用できなかった56、7歳ぐらいの方々が今年は大分増えています。その後、大幅に若い方が管理職になりますので、その時期に、女性の管理職も力をつけてもらいたいと思います。

女性管理職は、4年、5年かけていかないと、なかなか育っていかないとこのころがあります。大事に育てていきたいと思っています。宿泊等も含めて工夫していかないと、教員の二極化が激しくなっていますので、どのように育てていくかということで、私どもも、大きな課題と考えています。

明 石 委 員 それをお聞きして安心しました。実は、十数年前に小学校の全国の約900名の女性校長の調査を行いました。評判のいい女性校長はどのような人物かという内容で実施したのですが、回答として、子どもの頃に男性と一緒に遊んだ人が挙がりました。や

んちゃ、おてんば娘であって、結婚されて育児に専念して、ご主人がサラリーマンでも必死に頑張って、すぐ手を挙げて学年主任になっている、研究主任になっている、教務主任になっている、それで、教頭になって、恐らく、ステージごとに力をつけていく。

一番まずいのは、ずっと学級担任で、教科主任になって、時期が来たから教頭試験受けるというのが、残念ながら非常に細かく、幅が狭い人物になりやすいと思います。急には難しいですし、そのような意味では、今から女性の方の育成をステージごとに合わせて育成していただきたいと思います。急に指導主事から教頭になっても、非常に周りの方の評判が良くないというのが出ていますから、ぜひ、そのような研究成果も踏まえて育成していただきたいと思います。

和田委員 関連することで、家庭事情という点から見ても、女性は、どちらかというと家事の負担が大きいということもありますし、今、市長を初め、イクメンも増えていることですから、そのようなことでもこれからうまくやってくれるのではないかなと思います。

それにあわせてなのですが、女性教職員の全体数の中での管理職の割合というのわかりますか。また男性教職員、全体数の中での管理職がどのくらいいるのか、そのパーセンテージが今どのくらい違うかというのわかりますか。

教職員課長 今手元にデータがありませんので、改めてお伝えいたします。

報告事項(3) 千葉市未来の科学者育成プログラムについて

内山委員長 生涯学習振興課、科学教育推進担当課長、説明をお願いします。

科学教育推進担当課長 報告事項(3)「千葉市未来の科学者育成プログラムについて」、報告します。

千葉市未来の科学者育成プログラムは、科学に高い興味、関心を持つ中学生・高校生に対し、質の高い学習プログラムを提供することにより、未来の科学者を目指す意欲を持つ生徒を育成する事業で、今年度は、来週24日(水)から募集を開始し、6月15日(土)教育センターで行う開校式を皮切りにスタートします。

連携先を拡大して、受講生のニーズを考え、3つのコースを提供し、対象学年を増やして受講生の増員を図るなど拡充して開催します。

今年度新たに拡大した連携機関は、千葉大学教育学部サイエンススタジオCHIBA、千葉大学のフロンティアメディカル工学

研究開発センター、千葉市動物公園、千葉市環境保健研究所などが挙げられます。

拡充した3つのコースは大学と研究機関や企業で様々な分野の科学技術について学ぶ総合コース、千葉大学を中心に高度な科学について学ぶ千葉大学連携コース、医学・医療の現場、動物の生態などに関して学ぶ医療系コースとなっています。医療系コースでは、7月に中野委員にも講師をしていただく予定です。

その他、今回の特徴としては、受講生が希望し、定員枠があれば、ほかのコースのプログラムを受講することができることです。それから、特別セミナーや特別カリキュラムを設定し、これらについても、希望と定員に応じて受講生が受講することができるようになっていきます。

また、開校式では、千葉大学の理事、副学長で薬学博士の山本恵司先生に記念講演をいただくことになっています。それから、12月には、アイソンすい星が大接近するということと関連させて、すい星研究者の第一人者である国立天文台の副台長、渡部潤一先生の特別講演を11月に予定しております。

6月から来年1月までの長い期間となりますが、充実したプログラムが実施できるように頑張りたいと思います。

和田委員 2年目にして大いにバージョンアップしていただき、素晴らしいと思いました。2点質問したいのですが、おとといの市政だよりに枠をとってありまして、募集要項の簡単なものが載っていたのですが、これ以外では、各校で何か配ったり、子どもたちに直接届くような周知の方法は何かありますか。

科学教育推進担当課長 千葉市立中・高等学校については、対象者の中学2年生、3年生、高校生には1枚ずつチラシを送るようにしてあります。それから、各学校に募集のポスターを掲示しています。県立や私立の高校へは、ポスターとチラシ、募集要項等を何部か配るという形をとります。その中に、ホームページから募集要項が入手できるとか、学校の先生に相談すれば、募集要項が手に入るという情報も入っています。

また、ホームページについては、今のところ生涯学習振興課の科学教育推進のページに掲載されております。

今後、科学フェスタ関連事業として、科学フェスタのホームページにもアップする予定になっています。

和田委員 市政だよりを拝見すると、それぞれのコースの概要は書いて

あるのですが、先ほどお話しいただいたようなすばらしい講師の方がいらしているとか、カリキュラムの詳細までは周知されていないようです。今後市政だよりなどで、詳しくはホームページを参照くださいと載せたほうが、よりわかりやすいかなと思いました。このタイトルで検索するとすぐに出てきて、細かいプログラムが出てきていますけれども、市政だよりだけだと詳しいことがわからず、少し内容に比べて残念な気がします。

それと、未来の科学者育成プログラムという名前が長くて、何かうまく省略して、簡単に言えるようなものがあると、もっと口づてで伝わっていく気がするのですが、何かお考えいただければと思います。

明 石 委 員 私も和田委員と同じように、本当に2年目でよく頑張っていたというのうれしいです。

そこでお願いなのですが、今年の受講対象者は40人となっていますが、去年の受講者は何人でしょうか。

内山委員長 27人です。

明 石 委 員 27人ですね。それで、去年受けた方は今年どうするのか。

今回は、皆ビギナーなのか、リピーターもどうなのかって、このくらいの興味・関心の持てるような内容であれば、3年くらいはこれで良いと思います。その後をどうするかというのを考えていただけると良いと思います。

NPOの千葉自然学校というのがあります。シニアの方が千葉の海とか山とか里山含めて勉強したいという、2年コースで40人来ます。ものすごく倍率が高いのです。その後に専攻科を作ってほしいと言ってきました。30人から40人で勉強したい。勉強ではなくてワークショップをやりたいというような話がありました。未来の科学者育成プログラムは良いプログラムでしょうから、1回だけなのか、3年間は1回だけでいいですが、4年目からは、リピーターに対しては、少しバージョンアップするという構想を持っていたきたいと思います。

また、中学生・高校生がミックスされているのがおもしろいです。これが生涯学習の発想だと思います。学校教育の場合のように、すぐに学年を合わせるのではなく、チームを作って行うということがおもしろいので、できたら、所管は生涯学習振興課でよろしいかと思いますが、ぜひ、教育センターも加わって、教育センターの上手な発想を取り入れたゼミナールを設けると良い

と思います。一般の人を対象としたイベントを起こすのは生涯学習振興課が上手なので、ゼミナールを作るのは、教育センターの専門の先生がいらして、ゼミ長を決めて、それでコース別に育成していくという形で実施して頂ければと思います。

今後は、千葉大学の飛び級に進学できるようなシステムにするために、教育センターの発想を入れていただいて、両方の名前を出してくれると良いかなと思います。

科学教育推進担当課長 1つ目のリピーターの件ですが、昨年度の受講生は、中2と高1でした。昨年度の受講生には案内を出していきます。中3については、受験のことがありますので、研究成果発表会については免除するという形で行います。受験への影響をできるだけ少なくなるように配慮し、継続もできるように対象学年を増やしました。

2つ目の教育センターの件ですが、現在も教育センターと連携・協力しており、教育センターがないと、このプログラムも実施できないというくらいの協力をいただいています。引き続き、学事課や指導課も連携しながら、当分はこのような形で充実、発展をさせていこうと考えています。

生涯学習部長 追加なのですが、昨年も受講者が27人いましたので、このような方々のフォローはさせていただこうと思っています。そのような方を増やしていったら、次のステップへというのが見えてくると、また新たにそういうのをやってみたいという方が増えてくるとと思います。そういうところは少し注意してやっていきたいと思っています。

報告事項(4) 市立高等学校の進学状況について

内山委員長 千葉高等学校長、稲毛高等学校長、順に説明をお願いします。

千葉高等学校長 報告事項(4)「市立高等学校の進学状況について」、報告します。

本校の進学型単位制は、平成19年から始まりまして、今回で4回目の卒業生を出すこととなりました。

進学型単位制導入の前までは、国公立大学を一つの指標にしますと、20人程度の国公立大学の合格者でしたが、進学型単位制高校になりましては、40人を超えるような形になりました。

今年の3月の卒業生については、現役で47人の国公立大学の合格者を出しております。そのうちの、理数科39人のうち9人が現役で理系の国公立大学に進んでおります。

それから、浪人生ですが、東北大学工学部、筑波大学も理工学部、それから、東京大学理Ⅰ、信州大学医学部等の大学で合格者が出ております。浪人生については、志望を下げずに自分の希望どおりの大学を受験しようというような傾向があります。

それから、難関私立大学ですが、早慶・上智・東京理科大が現役で36人、MARCHと言われるところが、143人ということで、私立大学は1人で複数の合格を得ることができますので、一つの指標にはなるかと思いますが、国公立のように1校のみの受験というわけではありませんので、一応、累計ということでお願いしたいと思います。

本校は、昨年度からスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けており、理数教育を基盤とし、その上での文系・理系というような進学先を考えております。ただし、年次進行ですので、現在の1年生と2年生がスーパーサイエンスハイスクール、SSHの対象になっております。

内容としては、理数科だけではなく普通科においても、すべての教科・科目で科学的な切り口を入れた授業を行うことになっておりますので、そのような能力をつけた上で、今後とも職員と一丸となって進路指導にも努力していきたいと思います。

稲毛高等学校長 本校は平成19年に附属中学校を併設しまして、今回、その初めての卒業生です。また、普通科の他に国際教養科を持ちまして、国際人の育成ということを視野に置いて取り組んでいる学校です。

今回の進学状況については、国公立大学ではこれまでなかった京都大学に2人合格というのが一番特筆されるところです。そのほか、千葉大学の合格者数は相変わらず厳しく、若干の増となっています。

今回、内進生が特に注目されるのですが、外進生のほうが国公立大学の合格者数は多くなっており、国際教養科では、東京外国語大学に3人が合格するというように、内進生ともども外進生、国際教養科でも成果が上がっております。校長としては、一番目標としてもらいたい国際教養大学に今回1人合格したのが非常にうれしいことであります。

私立大学については、MARCHクラス以上の合格者が非常に増えまして、特に早慶・上智大学については、本校、国際基督教大学や上智大学が一番校風に合っていると思うのですが、上智の合

格者が一挙に増えたという状況です。

本校は、A O入試と指定校推薦よりも、実力で受験するということを主眼にしておりますが、志望校と合致した生徒は、推薦入試やA O入試へ流れるという傾向がある状況です。この成果が中高一貫教育によるものなのか、あるいは、この1期生、20倍を超える倍率の中で入ってきておりますので、よい人材を確保した結果なのか、そのあたりは数年かけて検証していかなければならないと思っています。

明 石 委 員 稲毛高校のことについてですが、6年前に、当時の校長の話や議会で、6年後にこのようなアウトプットを想定したというような到達目標を多分掲げてあったと思っています。それで、英語にも力を入れるし、留学生も海外に行かせるとか、何かそのような6年前の設置した際の数値目標と、今回6年後のこれが大体うまくいっているのか、期待以上にうまくいっているのか、もっと下がったのか。

これを見ると、非常に外進生というのが刺激を受けている。内進生と交流したからこうなったのか、このあたりのデータの解釈をどうされているのかお聞きしたいのです。

稲毛高等学校長 まず、開校当初の数値目標ですが、高校2年生までに内進生は英検2級を100%取得するということが1つ出ております。卒業までには、TOEICで650点取得という目標が出ていますが、この目標に対しては、現在は英検ではなくGTECという英語の能力を調べるテストがあり、GTECの数値でもって判断しています。英検2級は高校卒業程度ということですので、それよりもこの数値を用いて、その点数を目標にしてやっていますが、達成率としては、今、50%を超えるところで、100%までは行っていません。

それから、内進生と外進生についてですが、本校の生徒、内進生、外進生を問わず、学ぶ意欲というのが非常にありまして、それから、先生方も教えることが大好きな先生方が多いものですから、ゼロ時間目、8時間目というのが、こちらからお願いしているわけではないのですが、行われています。

ゼロ時間目というのは、朝7時半から行う授業で、授業をする先生もいます。それから、8時間目というのは、放課後、自発的に講座を開いて生徒を集めるという先生がいます。そのような所の講座を開きますと、教室がいっぱいになるという、そのような

お互いの学び合いの中で行っておりますので、内進生、外進生、切磋琢磨して行った結果がこのような結果になっているというように考えています。

明 石 委 員 国公立で中高一貫は200校弱近くあるのですが、一番身近でいうと、千代田区の区立九段高校、6年コースで同じような数値目標を、高校2年生で英検2級というのを9割方達成しています。だから、そのような数値目標を掲げて、50%になった分析を教育委員会に出していただきたいと思います。なぜ、半分しか達成できなかったかということを知りたいと思っています。

もう一点は、九州の公立高校は、佐賀高校や日向高校でも、みんなゼロ時間目とか8時間目を設けて、あそこは予備校が少ないからやっているのですが、千葉市のような都市部の公立の中高一貫で、こんなに受験勉強について学校が責任を持って良いのでしょうか。それなら、もっと特別活動を、生徒会活動とか部活動で世界に通用する人材育成をするのが中高一貫のいいところだと思うのですが、逆行しているのかという感じがします。まだ詳しく聞いていませんから、今度、一度見に行きたいと思っています。

朝、多分、弁当を持って行くのではないかとと思っています。九州はみんなそのようにしていて、朝、弁当を食べてから1時間目が始まっています。今初めて、稲毛高校で早朝勉強と放課後勉強を行っているのを聞いたのですが、それは、自由選択制なのか、それとも必須でやっているのでしょうか。部活動はどうするのかということを知りたいです。例えば麻布高校や開成高校では、6年コースで、5年間は部活動をみっちりやって、カリキュラムが終わって、あと1年残ったから、自由選択にするということを行っています。そのような資料を出して頂かないと、この数値の読み方がわかりません。

稲毛高等学校長 ゼロ時間目、8時間目については、あくまでも希望者ということで、こちらからカリキュラム化したものではありません。

それから、部活動ですが、本校、文武両道ということもうたい文句としています。昨年は野球が県大会ベスト16、バドミントンが県大会のベスト8、ダンスドリルが全国大会出場というように、スポーツの面でも力を入れておりますので、文化面もあわせて、部活動の向上というところもあわせてやっております。

和 田 委 員 2点あるのですが、1点はお願いなのですが、参考資料でも結構ですが、今後、過去3年間くらいの合格者数もあわせて表を

作っていただけると、すごく変化がわかってわかりやすい資料になるかなと感じました。ご検討いただければと思います。

それから、もう一点お伺いしたいのは、両校共になのですが、今年度、現役で進学するのではなくもう一回チャレンジしようと、浪人をしようと決意した生徒の数がどのぐらいいるのかわかりますか。

千葉高等学校長 最初の1点目の3年間の合格者数は学校要覧をお持ちしておりますので、そちらに3年間記載してありますので参考になるかと思えます。

浪人生ですが、千葉高校は、今年の3月は80人、その前の年も82、3人ということで、大体80人くらいの人数で推移をしているところですよ。

稲毛高等学校長 同じように学校要覧には昨年のもので載っておりますが、比較するものを用意しておりますので、ご覧いただければと思います。

また、浪人生の推移に関しては、今年度76人が浪人生で、一昨年が63人、その前が50人、その前が82人というところで推移しています。

明石委員 意見ですが、浪人生で、一応伸びるタイプの学校と、ずっと伸び切って、余り浪人しても伸びないタイプの学校というデータがありまして、私は、中高一貫は、浪人生をなくするのが一つの目標だと思い、そのために一貫教育をやっていると思います。市立千葉高校のように3年ならば、様々な事情があって、浪人されている方もいると思うのですが、76人の浪人生を学校の皆さん方はどのようにお考えになっているのでしょうか。非常に頑張っていて、まだ伸びしろがあるからと期待できるのであれば、進学ガイダンスをされているのでしょうか。

せっかく6年間、様々な形で生徒を個別に見ている中でも、タイプがあると思います。浪人して伸びそうなタイプと、これはもうここで、少しランクを下げたほうが良いというようなタイプがいると思います。そのような進路ガイダンスはどうされているのか、今回、1期生でしょうから、内進と外進の問題も含めて、76人の中の内進生と外進生はどちらが多いかということをお聞きしたいです。

稲毛高等学校長 内進・外進別の浪人者数は把握しておりませんが、ほぼ1年生、2年生はカリキュラムが内進生・外進生、一部違いますので、ク

ラスを分けます、大きな違いはないのですが、3年になりますと、すべて内進生・外進生をシャッフルしまして、理系と文系に分けますので、そのような最終的な進路指導に関しては、内進・外進分けずに行っておりますので、担任あるいは進路指導部長がこまめに面談等を行って本人の希望を叶えるように努力しています。

明 石 委 員 次回、そのデータを出していただければと思います。

議案第12号 千葉市指定文化財の指定について

内山委員長 生涯学習振興課長、説明をお願いします。

生涯学習振興課長 議案第12号「千葉市指定文化財の指定について」、説明します。

千葉市文化財保護条例第4条第2項の規定により、新たに千葉市指定文化財として、中鹿子第2遺跡出土土偶を指定しようとするものです。

この土偶は、胴体部分のみが表現されており、腰に当たる中央部がくびれた形となっていることから、バイオリン形土偶とも呼ばれています。

土偶の概要につきまして、主な項目を説明します。

まず、大きさですが、高さ3.04センチ、幅2.3センチ、厚さ0.93センチという小型の土偶になります。

この土偶が出土した中鹿子第2遺跡は、千葉市の東南端、緑区の板倉町から小山町にまたがった標高約100メートルという市内で最も高い台地上にあります。当該地は東京湾に注ぐ村田川と印旛沼に注ぐ鹿島川などの分水嶺となっています。

そして、この土偶はこの遺跡の中でも千葉市最古の土器群であります撚糸文系土器が集中するエリアから出土しており、また、この土器がつくられたのは土偶発生期であることから、我が国において最古の時期に属するものです。

保存状態もよく、本市の歴史上重要と認められるもので、去る1月17日に開催しました千葉市文化財保護審議会において、指定に値する旨、答申をいただいています。

市指定文化財については、今回指定されますと49件目となります。なお、この土偶については、中央区南生実町にあります千葉市埋蔵文化財調査センターにおいて常時公開しており、市民の方々にご覧いただいています。

明 石 委 員 質問なのですが、私は千葉市埋蔵文化財調査センターの場所は知らなかったし、名前はうっすら覚えていましたが、定かでは

ありませんでした。もし、データがあれば、千葉市の教員約5,000人の先生方がこの埋蔵文化財調査センターを何%知っているかというデータをいただきたいと思います。せっかく良い施設があるのに、多分、知らないのではないかと思います。

例えば、初任者研修の中に千葉市がやっている、給食センターを訪問するとか、埋蔵文化財調査センターに行くとか、加曽利貝塚に行くとか、学校外の地域文化財、それをもっと教員に知ってもらうという動きがある。そういう意味では、一度、生涯学習振興課あたりで教員対象、管理職含めて、地域文化財をどれだけ知っているのか、行ったことがあるのか、知っているが行ったことがないとか、その事実をどこかで調べていただけると良いと思いますので、その辺りに関するデータがありましたら教えてください。

生涯学習振興課長 何%というデータはありませんが、埋蔵文化財調査センターも含めて各施設を学校にもっと知ってもらうということは必要だと思います。また、同センターでは学校に出向いて出前講座を実施しておりますが、年度当初の校長会で多くの学校に参加してもらえよう、事業内容を説明しております。その他にも埋蔵文化財調査センターと教育センターで相互にホームページのリンクを設定し、連携を図っています。

教育センター所長 初任者研修を大幅に改善しまして、本年度から「千葉市を知る」という、グループ別で様々な場所へコースを作成し、巡るという研修内容で7月26日に1日かけて実施する予定になっています。スタートとゴールだけ決めておいて、それぞれ行く場所を決定しますので委員ご指摘のような場所にもコースを設定するのではないかと期待しています。

志村教育長 郷土かるたを一つ持って行きまして、初任者に「かるたをやってみてください」と言ったのですが、本当に秋田県から初めて出てきて、4月1日から千葉市勤務で千葉市のことを何にも知らないという先生がたくさんいます。今、お話があったようにそのような事がありましたので、今年はこのような形で実施できればと思います。去年、千葉学を座学でやったのですが、座学はだめでした。やはり直接行かなければならないと思います。教育センターが大分工夫してくれて、今回行ってくれると良いなと思っています。

千葉市科学館、プラネタリウムも見ないという方がいますから

ね、残念です。それだけ忙しいのかなとは思っています。7月は夏休みに入りますから時間にも余裕があるかと思しますので、どのようになるのか期待しています。

篠原委員 私も埋蔵文化財調査センターに行ったことはありません。

和田委員 篠原委員が教育委員として入られる前に私たちは行きました。

篠原委員 そのような機会がないと行けないというのもちょっと残念なところだと思います。

志村教育長 時間がとれるのであれば、ぜひ事務局のほうで考えて、行っていただく形がとれればと思います。

美術館できのうから始まりました企画展の「仏像半島」が素晴らしいです。千葉市内でも東光寺さんのものが出ていますけれども、ぜひ、ご覧いただくとよろしいかと思います。

内山委員長 私も昨日2時間もいましたけれども、議長さんがお話の中で、1つ、子どもたちにも、難しいかもしれませんが、見てもらいたいということをおっしゃっていましたね。これから本当に見る機会がないと思いますよ。素晴らしいです。

志村教育長 明日教頭会で、中学生などに見るように言いたいです。今、トライアングル、プラネタリウム、美術館、郷土博物館の3か所でこれに関連した展示をやるという形を実施しています。

篠原委員 千葉市の指定文化財も置いてあるのですか。

志村教育長 東光寺さんのもの2つ入っていますけれども、今回、33年に一度しか出品されない秘仏が展示されるということでした。

8 その他

(1) 教員研修について、和田委員から質問があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

和田委員 、教員研修についてですが、前年度の末に研究報告会についてご報告いただいたときに、来年から教員研修をバージョンアップしてということをお話伺いましたので、今までにない部分で何か宣伝しておきたいことがありましたら、ぜひ、プレゼンをお願いします。

教育センター所長 今年、大きく変わるのとは2つ、宣伝としてあります。

1つは、初任者研修、1年目は研修がありますが、今まで千葉市はその後の悉皆研修としては5年目までありませんでした。そうしますと、当然、2年目、3年目、4年目の間になかなか自分で希望研修を受講する機会はありませんでしたが、2年目、3年目にしっかりと力をつけてもらおうということで、2年目・3

年目研修、リレー研修として新たに新設をしました。

これはあくまでも初任者研修ではなくて、1年目を踏まえた教員がその力をさらに強めるという意味での2年目・3年目研修です。これは、あえて悉皆にしませんでした。推奨研修として学校長がぜひ研修をしたほうがいいよということで薦めてもらって、限りなく悉皆に近い研修をするというような形で持っていきたいと考えています。

それから、2つ目が、昨年まで行っていたのですが、アフタヌーンセミナーと申しまして、年間3回から4回実施するのですが、その時折の必要だと思われる内容の講座を新設します。昨年は、放射線が話題になりましたので、放射線の内容について放医研の方から講師として来ていただきました。

2回目が危機管理、避難訓練が今までどおりの避難訓練でいいのかという疑問からスタートしまして、避難訓練のあり方について実施しました。3回目は、いじめが話題になっておりましてので、いじめ対応ということで千葉大学から賛同していただいて講座を設けたということで、今年もその時折に必要とされるアフタヌーンセミナーを新設していきたいと考えています。

その中で、今年の1回目は、7月に行う予定ですが、食物アレルギーのことについて理解を深めようということで、決まっています。2回目、3回目については、様々な情報を得ながら講座を実施していきたいと思っています。

特に、専門研修においては、今年度、希望研修ですが、時間や予算など様々な制約がありますので、今年度は特に、こころというのを一つのテーマに掲げて、いじめ・体罰・不登校に関する内容で、生徒指導や不登校に対する教育相談の講座、等の充実を図っていく形で考えています。

和田委員 必ずしも多くの先生方が来られるということではないので、それを持ち帰っていただいて報告していただくことももちろんですし、出前講座や、ぜひ、DVD化していただいて、配付するなどの工夫を今後あわせてお願いしたいと思います。

(2) 教員採用について、明石委員から要望があった。

明石委員 本日の定例会の報告事項で県の人事のことが出ておりましたよね。ぜひ事務方で検討していただきたいのは、千葉市がいつから独自に採用を行うという、県と分離して行うかというロードマップをそろそろ作ったほうが良いと思っています。要するに、人

事権がないから市町村教育委員会が責任を持っていかないと、県が全部握っていますので、それでは困ります。せめて、千葉市は早い段階で独自の採用くらいの腹づもりしておかないと難しいだろうと、1点、それを事務方が行っていたきたいと思います。

データがないと、ただ言いつ放しで終わりがねないと思います。まず一番いいのは、いつから県と分離するかという、その辺を市長とも相談しながら、これは財務のこともありますから、検討していただきたいと思っています。

(3) 校長公募について、明石委員から要望があった。

明 石 委 員 民間校長の採用が何割くらい可能なのでしょうか。それは、いろいろなところで失敗もあるし、成功もあると思います。そのあたりを踏まえて、私個人は1割説を唱えているのですが、すぐには難しいから、今から準備しておかないと無理だろうと思っています。

(4) 公民館長公募について、明石委員から要望があった。

明 石 委 員 公民館館長の公募についてですが、退職した校長や事務方の職員が公民館長として再任用されている状況がありますよね。それを見直す。全部ではありませんが、例えば、公民館の館長の公募制を検討する場合に、何人くらいを検討するのか、どのようにしたら、活性化できるのかということを、事務方のほうでプロジェクトチームを作っていたきたいと思います。人事でしょうから、すぐには難しいと思いますが、どこまで可能かということは今からやっていただくと議論しやすいと思います。

(5) 教員初任者研修について、明石委員より要望があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

明 石 委 員 初任者研修の問題で、細かいことなのですが、今年は4月1日が月曜日でしたね。月曜から金曜日までで、始業式の前に準備ができたので、非常に新卒者は助かっています。一番困るのは、たった2日間しか準備ができなくて、土日があって、3日から始まって、3日、4日で、2日間で全部校内分掌を覚えて、5日に始業式でしょう。学級はもうがたがたなのです。

ですから、暦によって違いますが、着任してから始業式までの余裕がある時の新卒者と余裕がない時につまづいてしまう新卒者を比較するようなデータが多分あると思います。卒業生に聞いたら、すぐわかる。あつという間に教科書見て始めてくるという、やはり、4月の第1週が一番大事だと。それを校内研修で任せる

のか、教育センターが全体を含めて、200人近く入ってきますから、学校に任せても負えないと、市としてそういったサポートをしていくとか、入る前に非常に戸惑いがあるということを踏まえて、研修の検討をしていただければと思います。

教育センター所長 先日、宿泊研修を行ったときにもやっているのですが、困ったことを聞くようなアンケートではなくて、今の気持ち・心境をバロメーター化して、今どんな状態であるかというのを常に全員チェックしています。正直申しまして、そのバロメーターが低いといえますか、少し意欲が下がり気味の研修生に対しては、各学校の校長、教頭に連絡をして様子を見てもらう。または、次回、その人が中心になるような活動に持っていくような、去年はどのような措置をとりまして、かなり効果があったと思っています。

ですので、普通、アンケートというと、今困っていることは何ですかというような聞き方をするのですが、それをやめて、今の自分の気持ちについて、調子がいいのか、悪いのか、うまくいっているのか、その辺を踏まえながら、それをデータで出せというのは個人情報の問題がありますので出せませんが、それはすべて毎回とっています。今年も、20回ありますので、20回アンケートをとるつもりです。

内山委員長 それはいいですね。

和田委員 視点が新しいですね。

志村教育長 実際の問題として、学年に2学級・3学級ある学校と、相当小さくて、1人で新卒が学年を準備しなくてはいけない、そういった学校差が随分あります。実態を見て、特に1人担任のようなところについては、教育センターなり教育委員会のほうで学校を少しサポートするなどの必要があります。複数の学級の場合には学年主任などが面倒を見てくれますけれども、1人で全部やれというのは結構大変なところがあると思います。それとは別にセンターのほうで実態を踏まえ、考えたいと思います。

(6) スクールソーシャルワーカーと理科教育サポーターについて、和田委員より質問があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

和田委員 スクールソーシャルワーカーと理科教育サポーターについてなのですが、おとといの市政だよりの中で、両方とも募集をかけていると思います。今年度当初から、4月からスタートするのかなと思っていたのですが、今募集して、この後から開始ということなのか、まず、それを伺いたいと思います。

指導課長 4月15日から募集を始めています。遅くなった理由については、両方とも新しい事業であるということを踏まえて、どのように進めていくか等の検討をしていて、4月にすぐに事業を始めるというわけにはいきませんでした。

和田委員 スクールソーシャルワーカーについては2人ということでお話を伺っていましたが、配置については以前はどこかに常駐していて、用事があれば出ていくというようなお話でしたが、それは何か変わりがありましたでしょうか。

指導課長 現在のところ、3行政区に1人ずつ計2人を配置していきたいと考えています。当初は、指導課に2人配置して、スーパーバイザーや両教育センター等々と情報交換を行いながら、それぞれの事案に対応していきたいと思います。

その後、9月から12月に小学校に配置し、1月から3月、後半ということで、違う学校に異動して配置をしていきたいと考えています。その学校はライトポートの設置校を考えています。

(7) 学校技能員について、明石委員より質問があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

明石委員 各小学校に学校技能員がいるかと思うのですが、学校技能員に対する校長や教頭から見た満足度を調べていただきたいと思います。

細かく聞くと、非常に評判のいいところと、あまり評判が良くない学校があると思っています。栃木県宇都宮市では学校技能員にそれぞれ特性を持った人5人でチームを作っています。例えば、電気が強い、コンセント、水道、水回りが強い、花の花壇がわかる、テント張りができる、様々なことを得意な方がチームを作る。前もって教頭が、来週運動会をやるからテント張りで来て欲しいという、チームを作って来てくれる。そうやってあるプロジェクトチームを作っておいて、学校の電話をもらおうとワンストップで行けるということをやっているそうです。これが、非常に評判が良いとの事です。

要するに、チームを作ると個人差がなくなってくる。できましたら、質を上げてもらって、チームを作ってすぐ出動できるような体制づくりを実験的に一つの区ぐらいでやっていただいて、特に若い先生が出てくると多分トラブルが起きるし、中間層がいまませんよね。その中で、外部の人材といいましようか、学校はみんなで作るのしょうから、その辺も事務方のほうで検討してもら

うと良いかと思えます。

教育総務部長 私どもも平成２３年度からいわゆる用務員のグループ制というのを導入し、今２８グループに分けまして、大規模作業などそのグループでこの学校に行って作業するというようなことでやっています。

明 石 委 員 それをもっと早く言ってください。技能員は、大事なんですよ。

教育総務部長 若手の用務員の指導にもなりますので。

篠 原 委 員 質問なのですが、用務員は各学校１人ずつしかいないのでしょうか。２人という学校はないのでしょうか。

教育総務部長 グループの班長的な者がいるところもありますが、原則は各学校１人です。

篠 原 委 員 技能員と事務室には事務職員がいつもいるのでしょうか。

教育総務部長 事務職は県費負担職員の方がいます。いわゆる技能員というのは原則１人です。

篠 原 委 員 技能員の方というのは、先生でもないし保護者でもないという形でいつも学校にいますので、時々子どもの抛り所になることがあるのですね。たまたま私の子どもたちの行った学校の技能員の方が、時々授業のときにいてくださって、そして、子どもたちと交流を持ってくださったりしていたのですね。

それを見ていて、中間的な立場の大人の人が学校にいるというのは非常に良いなということを感じていました。ぜひ、そういった形で働いていただけたら良いと思いました。

(8) 小学校入学式について、篠原委員、内山委員長、より要望・所見が述べられた。

篠 原 委 員 今回、本町小学校の入学式に出席しました。小学校２年生のお友達が１年生をお迎えするために替え歌を歌って盛り上げてくれたのですね。私たちがどんなお話をしても全然子どもたちは興味を持ちませんでしたが、２年生の子どもたちが舞台上で歌を歌ったら、本当に楽しそうに、これから小学校の生活が楽しく始まるぞという期待がよく伝わってきました。あともう一つ、ＰＴＡ会長のお話があったのですが、本町小学校の杉の木の違いを伝えをお話しいただきまして、本当に非常に良いお話を聞かせていただけたなと思いました。その杉の木は、震災で１回焼けて黒焦げになったそうです。そこから新しい芽が出てきて、そして復興したというお話をしてくださいまして、本当に本町小学校のことを愛

していただいている保護者がたくさんいるということをおもいました。

内山委員長 私も2年生の発表で、お遊戯をやっていましたね。電報の紹介もありましたが、あのときは、本当に子どもたちはわかっていなかったと思います。長く名前を並べても誰も聞かないですね。保護者に関係するかもしれませんが、ちょっと考えていいかなと思いますね。

明石委員 委員長、賛成ですね。ここで決めれば良いと思います。電報は掲示しますとするだけで良いと思います。

和田委員 出身の幼稚園から来ているものを全部紹介するんですね。それで、自分が卒園した幼稚園の名前が出てくる、というようなことも恐らくあると思いますね。ものすごい数になってしまうのですよね。

(9) 次回第5回定例会は、平成25年5月15日（水）午後2時より開催することと決定した。

9 閉会

内山委員長より閉会を宣言